

2026_0215 「磁石にくっつく 50 円硬貨」日々の理科 4207 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

この写真は、昭和 30~40 年代に使われていた 50 円硬貨です。当時の 50 円玉は、現在のものより一回り大きく、手に取るとずっしりした存在感があります。左側は穴のないタイプで、初めて発行された 50 円硬貨です。その後、右側のような穴あき硬貨が登場し、見分けやすさや使いやすさが工夫されました。

私は子どもの頃、この穴のない 50 円玉が好きで、買い物のお釣りでもうと少し得をした気分になったものです。現在の 50 円硬貨は白銅製（銅 75%、ニッケル 25%）で磁石にはつきませんが、昔の 50 円硬貨はニッケル 100% だったため磁石にくっつきました。そのため子どもの磁石遊びにも活躍し、身近な科学教材のようでもありました。このニッケル 50 円硬貨は今でも「現行通貨」として使用可能です。しかし、昭和の記憶を宿す貴重な一枚として、大切に保管しておきたい硬貨です。

